

リーディングDXスクール事業【実践事例】

幸手市立幸手中学校

【取組内容①】「デジタルポートフォリオ」を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

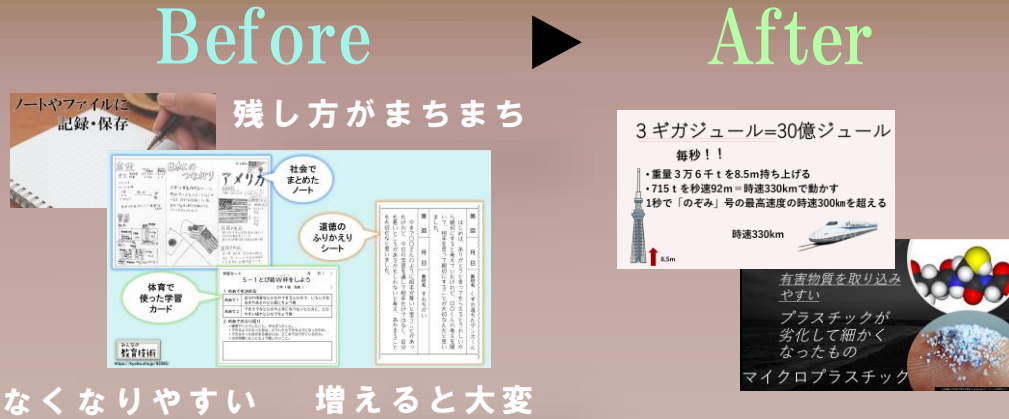
概要

自分の学びを自身で振り返り、生徒相互で見合い・学び合う機会創出のため、クラウド上で白紙の段階から共有されたデータを使用した「デジタルポートフォリオ」を学びの足跡として残していく。生徒たちは機会ある毎に他者の学びから自身の学びを振り返ると共に、学びの記録の将来への活用等よりよい学びへとつなげていく。

ねらい

考えるテーマ、課題を明確にし、思考・検索・編集・まとめ等の自らの学びの時間を確保し、その学びの過程や成果を記録に残す。

更に、他者と共有し合いながら、相互が自らの学びを更に深めたり、グループの考え等を構築したりする機会創出をICTの活用を通してねらう。



なくなりやすい 増えると大変

クラウドで一元管理

半永久的に保管可能

中学校卒業後は個人クラウドへ

成果

従来のノート・プリントだけでなく、端末やインターネットを活用することにより、広く・深く自身の学びを認識することが可能となった。

生徒の自己有用感や積極性の醸成にもつながり、将来に向けた武器となることの気付きを得られた。

課題・展望

何をどう記録し、将来にどうつなげるのかの見通しが不明確であり、次年度の課題である。卒業後、個人クラウドにデータを移行し、生涯に渡る財産（高校入試や大学受験、就職などに向けた自分の学びや人生の歩みを語れる資料と経験）にもなり得るといことも視野に入れていく。



Point!

約束

- ① 日付
- ② やったこと、思ったこと、感じたこと、成果など
- ③ デザインや画像、動画挿入などは自由（著作権、出典等デジタル・シティズンシップで学んだことは、しっかり守る）

視点の明確化



クラウド保管の意義理解

リーディングDXスクール事業【実践事例】

幸手市立幸手中学校

【取組内容②】デジタル・シティズンシップはじめネットリテラシーの向上を目指す外部専門家によるオンライン授業

概要

専門的知見を有した**有識者**（大学教授等）による、生徒が**ネットいじめ**に対してどのように向き合えばよいのか考える複数学級同時開催の**オンライン特別授業**を実施することで、多面的・多角的なオンライン授業が可能であることの実証を得る。

ねらい

デジタル社会で生きていく生徒達には、生徒一人一人がネットリテラシーについて考え、意思決定を促す場面を意図的・計画的に創出していくこと必要である。

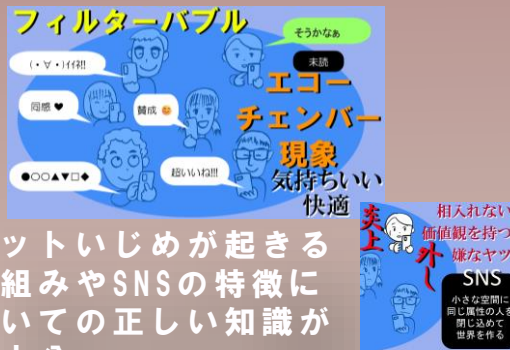
ICTを活用したオンライン授業により、有識者から得られる貴重な学びを提供することをねらいとする。

成果

対面実施の際に生じる遠距離問題の克服、高名な知識人から得られる貴重な学びの提供、複数対象が同時に学べる機会の提供が実現できた。

専門的知見に触れ、SNS利活用で問題が生じた際の新たな切り口・対処法に気付く生徒が多数いた。

Before



ネットいじめが起きる仕組みやSNSの特徴についての正しい知識が不十分



After



オンラインで複数学級同時実施

動画教材を活用



課題・展望

学びをもとに、自分たちで今後ICTをどう活用していくのか、その模索や検討、アイデア創出の時間を設定していく必要がある。

生徒自らが課題を解決するために学びたい外部人材等を探し、講演に向けての交渉・運営に携わる実践にも挑戦したい。



Point!

あえて匿名で集計できるアンケートフォームを活用することで、言いにくい内容でも発信できる。

そうだけど、ラインでしよう？相手の顔を見ながら話さなければ、太一に心情的ってわからないじゃん

なんで仲間はずれなの？別に悪いことは言っていないと思うけどな。仲間はずれの理由を教えてください

誰かを犠牲にしてまで仲間はずれにされたくないのかな。友情ってなん

まず、担任の先生に相談してみたらいいんじゃないかと促す意見が多くありました。そのあと、みんなで話し合いができたなら、いいんじゃないかとまとまりました。

みんなの意見にならないで、みんなと解決しよう

24でかっ遊園地と行く

24まあ、みんなで遊園地行くんだしタイキをグループに戻してナナミの分も遊園地楽しも！

そゆところあるけど、真面目でいいところもいっぱいあるから普通に楽しく話したり遊んだりしない？多分そっちのが楽しいよ。

そういえば遊園地の話はどうなったの？幸手中学校1年3組

リーディングDXスクール事業【実践事例】

幸手市立幸手中学校

【取組内容④】継続的かつ対話的・協働的な教員研修の実施

概要

生徒にICTを利活用していく上での当事者意識と情報活用能力を身に付けさせるというゴールを設定し、「**継続的な伴走支援**」を意識した、有識者（DX推進コーディネーター、大学教授等）による**教員研修**を実施。

ねらい

デジタル社会で生きていく生徒達の、当事者意識と情報活用能力を育成すべく、教員の資質・向上を図っていく必要がある。

この達成するために、DX推進コーディネーターや大学教授等から、いわゆる年度一回単発の研修ではなく、「継続的な伴走支援」を意識した教員研修を実施していただくことをねらいとする。

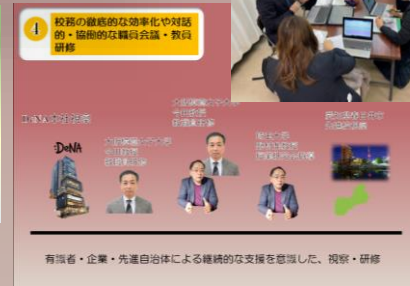
Before



移動の問題等から、
教員研修を設定しても
単発での実施
研究が深まりにくい

▶ After

年間数回の研修を設定



継続的な伴走支援を実現

成果

本校教員と有識者等の間で同じ絵を描いた上で、研修を企画・実施することができた。

研修が継続的であるため、前回学んだことをもとに教育実践に移し、その結果も指導者がフィードバックしてくれるため、研修の深まりを感じた。現在、教員から自発的な実践が生み出されてきている。

課題・展望

「苦手」「できない」と感じている教員の心に火を灯していきたい。

「校務のDX化」「自由進度学習」等にチャレンジしたいという教員からの声もある。市教委主催の年間指導計画相談会も利用しつつ、Teamsを活用した「緩やかな学びの場」を大切にしていきたい。次年度のリーディングDXスクール事業にも手を挙げ、更なる研究を進めていきたい。



Point!

市教委委員会も交えたオンラインミーティングの機会を定期的な設定することで、研究の方向性を常に確認



リーディングDXスクール事業【実践事例】

幸手市立幸手中学校

【取組内容⑤】PBL×DCを意識した『ICTサロン』の開催 ～生徒が主体となり、学びを地域住民等に発信～

概要

探究的な学びの過程を意識し、「ICTの善き使い手」をテーマに、生徒が市民に対して、デジタル・シティズンシップについて伝え、共有する機会を創出。

ねらい

予測困難な時代において、問題発見・課題設定をしながら、物事を探究し、新たな価値を創造していく力を身に付けた生徒を育成していきたい。

また、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等の中でも、自ら考え意思決定できる「ICTの善き使い手」の視点をもった生徒を育成していきたい。

PBLとDCをセット化したプロジェクトの実施で上記生徒の育成を図ることをねらいとする。

成果

「生徒がICTについて大人に教える、共に語り合う」という活動は、子供達にとって非常に心躍るミッションであった。それゆえ、従来行われがちであった、大人から子供に一方的に伝える情報モラル教育とは一線を画し、知識としての定着も、当事者意識をもった学びも実現できた。

探究の過程では、共に実践したさかえ小学校児童との協働的な学びも生まれ、ねらいの達成が図れた。

Before



ソコスト 情報セキュリティ教育

危険性偏重のモラル教育
トラブルは他人事
有用性を学ぶ機会が不足

After

「ICTについて今まで学んだことを、市民に伝え、共に語り合う」というProject

当事者意識の醸成に成功



まずは仲間の小学生に教える



課題・展望

参加者の大人達からも非常に好評であった本取組。今後どう活かすか、市内はもとより全国にどのように広がっていくかが課題である。

対象者の拡大、オンライン実施、生徒が社会に出て普及等様々な方法が考えられる。生徒の自主性と意欲を尊重し、教員も生徒と共に探究しつつ、既存のやり方等のモデルから新しい価値への再定義を図ることも検討していく。



Point!

ICTサロン実施後、参加者に対してDX推進コーディネーターが講演

